

# 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[関連製品](#)

[表記法](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[設定](#)

[例 1:](#)

[例 1 の確認](#)

[例 1 のトラブルシューティング](#)

[例 2:](#)

[例 2 の確認](#)

[例 2 のトラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

## 概要

環境によっては、複数のシリアルリンクを集束して、単一の集約帯域幅として機能させることが必要になる場合があります。このドキュメントでは、次の 2 種類の方法で 2 つのシリアルインターフェイスを集束するように Cisco 2503 Access Server を設定する方法を説明しています。

- 
- 

これらの設定は、専用回線経由で接続されたルータまたはチャネル サービス ユニット/データ サービス ユニット (CSU/DSU) 搭載のルータ、またはダイヤルを設定された ISDN ターミナルアダプタ (TA) に使用できます。(電話番号にダイヤルするために Cisco ルータは設定されませんでした。) 必要に応じて、この設定にその他の機能を追加できます。

## 前提条件

### 要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco 2503 ルータ
- Cisco IOS® ソフトウェア リリース 12.2(7b)

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

## 関連製品

この設定は、それぞれに WAN シリアル インターフェイスを備えた任意の 2 つのルータに使用できます。WIC-1T、WIC-2T、あるいは固定 WAN シリアル インターフェイスが使用できます。

## 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

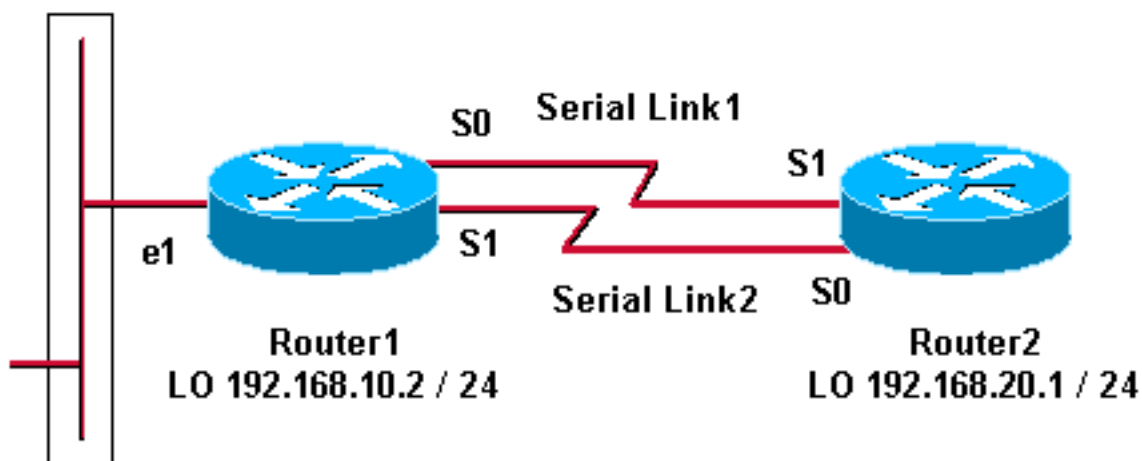
## 設定

この項では、このドキュメントで説明する機能の設定に必要な情報を提供します。

注このドキュメントで使用されているコマンドの詳細を調べるには、[Command Lookup Tool](#)（登録ユーザ専用）を使用してください。

## ネットワーク図

このドキュメントでは、次のネットワーク構成を使用しています。



## 設定

この設定は、Cisco 2500 シリーズのルータで Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.2(7b) を使用してテストされています。これと同じ設定の概念は、類似のルータ トポロジや Cisco IOS のその他のリリースにも適用されます。

### 例 1: インターフェイス ダイアラ

- [Router1](#)
- [Router2](#)

## 例 2：バーチャル テンプレート

- [Router1](#)
- [Router2](#)

## 例 1：インターフェイス ダイアラ

Router1 : Cisco 2503
----------------------

Router2 : Cisco 2503
----------------------

### 例 1 の注記

ppp direction callout コマンドは隠しコマンドで、ダイヤル元とダイヤル先がルータで把握できない場合 ( バックツーバックで接続されているか専用回線で接続されていて、CSU/DSU や ISDN TA がダイヤルするように設定されている場合 ) に使用されます。 ppp direction callin コマンドも使用できます。これらのコマンドのいずれかを使用します。

- ローカル ルータの場合は、 ppp direction callout を使用します。
- リモート ルータの場合は、 ppp direction callin を使用します。

このコマンドを使用しないと、ルータは一時的に接続されますが、すぐに接続解除されます。

上記の設定は Router1 と Router2 の 2 つのルータを説明しており、これらには、単一の集約帯域幅として機能するために集束する 2 つのシリアル インターフェイスがあります。両方のルータで、 interface loopback が設定されており、 ip unnumbered loopback0 を使用して interface dialer に統合されています。どちらのシリアル インターフェイスも IP アドレスなしで設定されています。物理インターフェイス Serial0 と Serial1 は dialer rotary-group で設定されており、単一の論理インターフェイス ダイアラに関連付けられています。

Dialer-list 1 で対象のトラフィックが定義されており、次にインターフェイス dialer 1 で dialer-group 1 コマンドがトリガーされて、リンクが起動されます。両方のルータに定義された dialer map 文により、インターフェイス dialer 1 がピア ルータの IP アドレスにマッピングされており、定義されたホスト名が CHAP 認証に使用されます。定義されたスタティック ルートにより、トラフィックが宛先にルーティングされます。

ppp authentication chap コマンドにより、PPP ネゴシエーションがイネーブルにされます。 dialer load-threshold コマンドでは、2 番目のシリアル ラインの起動をトリガーする負荷が設定されます。 ppp multilink コマンドと dialer rotary-group コマンドが設定されており、集約帯域幅を持つ単一のバーチャルアクセス インターフェイスに両方のシリアル インターフェイスを集束できます。 ppp direction callout コマンドでは、PPP ネゴシエーションと CHAP 認証でコールアウトを行う側が指定されます。

### 例 1 の確認

このセクションでは、設定が正常に動作しているかどうかを確認する際に役立つ情報を提供しています。

特定の show コマンドは、 [Output Interpreter Tool](#) ( [登録ユーザ専用](#) ) によってサポートされています。このツールを使用すると、show コマンド出力の分析を表示できます。

```
Router1# show ppp multilink Virtual-Access1, bundle name is Router2 Bundle up for 00:01:05
```

```
Dialer interface is Dialer1 0 lost fragments, 0 reordered, 0 unassigned 0 discarded, 0 lost
received, 1/255 load 0x0 received sequence, 0x0 sent sequence Member links: 2 (max not set,
min not set) Serial0, since 00:01:05, no frags rcvd Serial1, since 00:01:05, no frags
rcvd Router2# show ppp multilink Virtual-Access1, bundle name is Router1 Bundle up for
00:03:25 Dialer interface is Dialer1 0 lost fragments, 0 reordered, 0 unassigned 0 discarded,
0 lost received, 1/255 load 0x0 received sequence, 0x0 sent sequence Member links: 2 (max not
set, min not set) Serial1, since 00:03:25, no frags rcvd Serial0, since 00:03:25, no frags
rcvd
```

## 例 1 のトラブルシューティング

ここでは、設定のトラブルシューティングに役立つ情報について説明します。

特定の **show** コマンドは、[Output Interpreter Tool](#) ( [登録ユーザ専用](#) ) によってサポートされています。このツールを使用すると、**show** コマンド出力の分析を表示できます。

注 コマンドを使用する前に、[『debug コマンドの重要な情報』](#)を参照してください。

### debug コマンド

Router1 では、**debug ppp authentication** コマンドにより CHAP の成功が表示されています。

```
Router1# show ppp multilink Virtual-Access1, bundle name is Router2 Bundle up for 00:01:05
Dialer interface is Dialer1 0 lost fragments, 0 reordered, 0 unassigned 0 discarded, 0 lost
received, 1/255 load 0x0 received sequence, 0x0 sent sequence Member links: 2 (max not set,
min not set) Serial0, since 00:01:05, no frags rcvd Serial1, since 00:01:05, no frags
rcvd Router2# show ppp multilink Virtual-Access1, bundle name is Router1 Bundle up for
00:03:25 Dialer interface is Dialer1 0 lost fragments, 0 reordered, 0 unassigned 0 discarded,
0 lost received, 1/255 load 0x0 received sequence, 0x0 sent sequence Member links: 2 (max not
set, min not set) Serial1, since 00:03:25, no frags rcvd Serial0, since 00:03:25, no frags
rcvd
```

Router2 で、**debug ppp authentication** コマンドは示します「待っているピアを...."」

```
Router1# show ppp multilink Virtual-Access1, bundle name is Router2 Bundle up for 00:01:05
Dialer interface is Dialer1 0 lost fragments, 0 reordered, 0 unassigned 0 discarded, 0 lost
received, 1/255 load 0x0 received sequence, 0x0 sent sequence Member links: 2 (max not set,
min not set) Serial0, since 00:01:05, no frags rcvd Serial1, since 00:01:05, no frags
rcvd Router2# show ppp multilink Virtual-Access1, bundle name is Router1 Bundle up for
00:03:25 Dialer interface is Dialer1 0 lost fragments, 0 reordered, 0 unassigned 0 discarded,
0 lost received, 1/255 load 0x0 received sequence, 0x0 sent sequence Member links: 2 (max not
set, min not set) Serial1, since 00:03:25, no frags rcvd Serial0, since 00:03:25, no frags
rcvd
```

## 例 2 : バーチャル テンプレート

### **Router1 : Cisco 2503**

```
Router1# show ppp multilink Virtual-Access1, bundle name
is Router2 Bundle up for 00:01:05 Dialer interface
is Dialer1 0 lost fragments, 0 reordered, 0 unassigned
0 discarded, 0 lost received, 1/255 load 0x0 received
sequence, 0x0 sent sequence Member links: 2 (max not
set, min not set) Serial0, since 00:01:05, no frags
rcvd Serial1, since 00:01:05, no frags rcvd
Router2# show ppp multilink Virtual-Access1, bundle
name is Router1 Bundle up for 00:03:25 Dialer
interface is Dialer1 0 lost fragments, 0 reordered, 0
unassigned 0 discarded, 0 lost received, 1/255 load
0x0 received sequence, 0x0 sent sequence Member links:
2 (max not set, min not set) Serial1, since 00:03:25,
```

```
no frags rcvd Serial0, since 00:03:25, no frags rcvd
```

```
Router2 : Cisco 2503
```

```
Router1# show ppp multilink Virtual-Access1, bundle name
is Router2 Bundle up for 00:01:05 Dialer interface
is Dialer1 0 lost fragments, 0 reordered, 0 unassigned
0 discarded, 0 lost received, 1/255 load 0x0 received
sequence, 0x0 sent sequence Member links: 2 (max not
set, min not set) Serial0, since 00:01:05, no frags
rcvd Serial1, since 00:01:05, no frags rcvd
Router2# show ppp multilink Virtual-Access1, bundle
name is Router1 Bundle up for 00:03:25 Dialer
interface is Dialer1 0 lost fragments, 0 reordered, 0
unassigned 0 discarded, 0 lost received, 1/255 load
0x0 received sequence, 0x0 sent sequence Member links:
2 (max not set, min not set) Serial1, since 00:03:25,
no frags rcvd Serial0, since 00:03:25, no frags rcvd
```

上記の設定では、Router1 と Router2 に設定されたバーチャル テンプレートが説明されています。この例では、両方のルータを仮想テンプレートで設定します。これらのルータはバックツープックに接続されており、マルチリンク セッションはアイドル アウトしません。静的ルートは不要です。PPP ネゴシエーション後にホスト ルートをインストールします。

Cisco IOS® ソフトウェア リリース 11.3 以降を使用して、PPP マルチリンクに仮想テンプレートを使用します。

**virtual template** コマンドにより、バーチャル アクセス インターフェイスがダイナミックに作成され、**multilink virtual-template** コマンドにより、これらが物理シリアル インターフェイスに適用されます。インターフェイスのバーチャル テンプレートに設定された **ppp authentication chap** などのパラメータは、両方のシリアル インターフェイスに適用されます。帯域幅を集約するために、インターフェイスのバーチャルテンプレート内の **ppp multilink** コマンドにより物理シリアル インターフェイスが集束されて、バーチャルアクセスが形成されます。

## 例 2 の確認

このセクションでは、設定が正常に動作しているかどうかを確認する際に役立つ情報を提供しています。

特定の **show** コマンドは、[Output Interpreter Tool](#) ( [登録ユーザ専用](#) ) によってサポートされています。このツールを使用すると、**show** コマンド出力の分析を表示できます。

```
Router2# show ppp multilink Virtual-Access1, bundle name is Router1!--- Virtual Access interface
used for the bundle Bundle up for 00:20:38 0 lost fragments, 0 reordered, 0 unassigned 0
discarded, 0 lost received, 1/255 load 0x0 received sequence, 0x0 sent sequence Member links: 2
(max not set, min not set) Serial1, since 00:20:39, no frags rcvd Serial0, since 00:20:39, no
frags rcvd!--- Note that there are two links (Se 0 and Se1) in the bundle
```

次のコマンドも有用です。

- **show ip route connected** が、virtual-access のための IP ルートがインストールされているかどうか見るため。
- **show interface virtual-access x** が、特定の仮想アクセスインターフェイスのステータスをチェックするため。上記の例では、バーチャルアクセス インターフェイスの番号は 1 になっています。

## 例 2 のトラブルシューティング

ここでは、設定のトラブルシューティングに役立つ情報について説明します。

特定の **show** コマンドは、[Output Interpreter Tool](#) ( [登録ユーザ専用](#) ) によってサポートされています。このツールを使用すると、**show** コマンド出力の分析を表示できます。

注 コマンドを使用する前に、[『debug コマンドの重要な情報』](#)を参照してください。

グローバル コンフィギュレーションで、次のようにタイムスタンプを設定します。

```
service timestamps debug datetime msecservice timestamps log datetime msec
```

トラブルシューティングには、次のコマンドを使用します。

- **debug ppp negotiation** か。クライアントが PPPネゴシエーションを渡すかどうか見るため。ネゴシエート中のオプション ( コールバック、マルチリンク PPP ( MLP ) など ) およびプロトコル ( IP、IPX など ) も確認できます。
- **debug ppp authentication** か。クライアントが認証を取得するかどうか見るため。
- **debug vtemplate** か。どんなバーチャルテンプレートの設定が使用されるか見るため。
- **debug vprofile** か。どんな設定 オプションが仮想アクセスインターフェイスに適用されるか見るため。

## [関連情報](#)

- [レガシー DDR ハブの設定](#)
- [ダイヤラ プロファイルを使用したピア ツー ピア DDR の設定](#)
- [Dial テクノロジ サポート](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)